

コロナ危機と政策対応

1

2021年12月23日

小林 慶一郎

慶應義塾大学

短期のトレードオフ

- ▶ 感染が急拡大する感染爆発期における短期的な課題
- ▶ 医療逼迫（医療崩壊）による過剰な死者を防ぐ
- ▶ 3つのバランス
 - ▶ 経済社会活動の制限
 - ▶ 一般医療の制限
 - ▶ コロナ医療の拡充
- ▶ バランスの基準は人命

短期のトレードオフ：限界原理

- ▶ 3つのバランス
 - ▶ 経済社会活動の制限 = コロナ対策の経済苦による自殺者
 - ▶ 一般医療の制限 = 不十分な一般医療による死者
 - ▶ コロナ医療の拡充 = 不十分なコロナ医療による死者
- ▶ **限界原理**：追加的な措置は、追加的な損失と利益がバランスするように決める。
 - ▶ 例) 経済活動の制限の強化
 - ▶ 損失（追加的な自殺者の増加） = 利益（追加的な救命の増加 [一般医療+コロナ医療]）

PCR検査の抑制的対応：縦割り思考

- ▶ コロナは多くの無症候感染者を発生させる。
- ▶ 情報の不完全性（市場のだれが感染しているかわからない）⇒ 経済低迷
- ▶ PCR検査の経済政策的意味：情報の不完全性を是正し、経済活性化
 - ▶ 陰性は有益な結果であり、PCR検査を多くの一般市民に実施することには価値がある
- ▶ 公衆衛生専門家の見方：患者の効率的な発見と治療が検査の目的
 - ▶ 一般市民に検査をして陰性の結果を出すのは、資源のムダづかいなので、検査対象を感染確率が高い対象に絞り込むべき
- ▶ 公衆衛生専門家は、対象の絞り込みと件数の抑制を強く主張
 - ▶ 経済政策的意義を認めず、あくまで医療行為としての意義からPCR検査を実施することの効率性を判断した

長期的なコロナ感染症の展望を示すべきだった

5

- ▶ 2020年の反省： 政府・専門家は、コロナ感染症の「見通し」を国民に示すべきだった
- ▶ 政府や専門家のメッセージ（2020年末まで）は「コロナはすぐに終わる」と示唆するもの
- ▶ 2021年になって、長期戦という見方を言い始めた
 - ▶ 初期：コロナは数か月で終わるとみるか、半永久的に（2年以上）続くとみるか、見方はバラバラ
 - ▶ コロナが数か月で終わるなら、資金繰りを融資でつないで短期間耐えること（時間稼ぎ）が正解
 - ▶ 半永久的に続くなら事業構造改革が必要（**接触型産業の縮小**と**非接触型産業の成長**）
 - ▶ 経営体力がある早い段階で事業構造改革に乗り出せば成功できても、時間稼ぎで消耗した後では成功しない